

共同研究事例Ⅳ

共同研究者
 学校法人国際大学
 国際大学グローバル・
 コミュニケーション・センター

概要

地域コミュニティは、環境保全など身近な地域社会の課題を解くためのカギのひとつです。しかし、少子高齢化、単身世帯化、ライフスタイルの多様化等が進む中では、地域コミュニティの活性化に不可欠な住民相互の（環境）コミュニケーションの維持発展は難しく、今後は地域コミュニティの課題解決力の低下も懸念されます。

国際大学グローバル・コミュニケーション・センター（GLOCOM）（東京都港区）と川崎市は、「環境」を主な切り口とし、川崎市の過去と現在との比較を素材としながら、地域社会におけるコミュニケーションを活性化する効果的な方法やプロセスの確立を目指し、2014年から共同研究を行っています。

2014年度は、素材となる本市の過去の写真や映像等の社会的リソースの収集を行い、資料として編集、その活用方を研究しました。2015年度は、市民にとって最も身近な環境問題のひとつである“路上ゴミ”を題材とし、環境コミュニケーションの活性化手法について研究しました。具体的には、株式会社ピリカとNPO法人グリーンバードの協力のもと川崎市の南部・中部・北部地域の主要鉄道駅をそれぞれ1つ選択し、駅周辺の路上ゴミを調査・オープンデータ化し可視化するとともに、各地の特徴や地域課題等を考察するワークショップを開催しました。ワークショップでは、各駅周辺のどの道にどのような種類のゴミがどれだけ落ちているのかを実際に路上のゴミを拾いながら記録し、誰でも定量的に路上ゴミの状態を把握することが可能となるデータを作成しました。

この研究により、地域の身近な環境課題に関する情報提供を活用した地域コミュニティの活性化が促進されることが期待されます。

環境情報・写真データを用いたコミュニティ活性化支援に関する共同研究

～川崎タイムマシン～

「環境」×「川崎の過去・現在」を対話する

安全・安心で質の高い社会の構築

川崎市の持つ資源

- 環境に係る過去から現在までの情報
- 川崎市の過去の写真・映像等の資料
- 市関係部署や市民団体等との連絡調整

共同研究者の持つ資源

- 地域コミュニケーションに係る知見
- ワークショップ等に係る手法やノウハウ
- オープンデータの活用や情報発信・普及に係る手法

2014年度 環境情報・写真データの収集・整理

市が保有する過去の市政ニュース映像や市内在住の写真愛好家が撮影した市内の風景写真から過去の川崎市の様子が分かるものを収集しました。さらにワークショップを開催し、それら映像・写真素材が環境コミュニケーションを活性化させることを確認しました。



過去のニュース映像



以前の風景写真



ワークショップ

2015年度 路上ゴミのオープンデータ作成と可視化

オープンデータ作成ワークショップを、川崎駅周辺・鷺沼駅周辺・新百合ヶ丘駅周辺の3箇所で行いました。

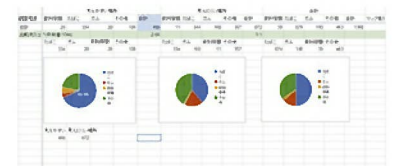


ゴミ拾いから地域を考え対話するワークショップ

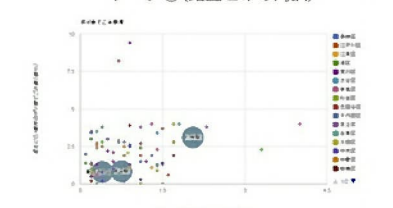
ごみ拾い調査で得られたデータ



データ①(通り別の状況)



データ②(路上ごみの内訳)



データ③(ごみ量で見る地域比較)